

第4回 伊勢市公共施設等総合管理計画検討委員会議事録

1. 日時 平成27年8月7日 金曜日 午後3時～午後5時
2. 場所 伊勢市役所 本館 本庁舎4階第4会議室
3. 出席者
 - (1) 委員出席者
筒井委員、奥出委員、河村委員、大西委員
 - (2) 市出席者
中川情報戦略局長、浦井情報調査室長、中川情報調査係長

4. 議事

- (1) スケジュールの変更について

市

- ・スケジュールの変更について説明した。

委員

- ・第5章と第6章に施設類型別と地域別の記述があるが、実施計画はこの中に書かれるのか。それとも、この計画で書くのはここまでなのか。

市

- ・この計画においては全体的な基本方針を書き、その後、施設の所管課で実施計画を策定することになる。

委員

- ・今回は、基本方針を8月末までに作成して、用途別、地域別としてこの計画の中でまとめるということではなかったのか。

市

- ・以前に分割して作成するとしていたのは、1章から4章までが前で言う基本方針という位置付けで、5章が用途別という位置付けであった。6章は地域別の位置付けであった。今回、それをまとめさせていただいた。

委員

- ・用途別と地域別というのは、前は分かれていたのを一緒にしたということで、この内容がもともと用途別であったということであるが、この計画とは別に用途別を策定するのだと理解していた。

市

- ・「3.3 実施計画の策定」にあるとおり、伊勢市公共施設等総合管理計画の下に、各施設類型ごとに実施計画を策定してもらう予定である。既に先行している「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する施設整備計画」等についても、本計画の策定後はそれに紐づく実施計画という位置付けにしたいと考えている。

(2) 伊勢市公共施設等総合管理計画（案）について

市

・伊勢市公共施設等総合管理計画（案）の修正点等について説明した。

委員

・人口ビジョンから、将来の生産年齢人口があつて、入りがあつて、出があつて、この金額でやるということだと思ふ。考え方として、入りの部分があつて、出との差額という考え方は悪くないと思ふ。

市

・本日欠席の委員からの意見は、「計画は分かり易くなって良かった。目標値については金額で設定すべきだと思うが、今回の算出結果を見るとかなり大きな削減額の数字が出てきており、その整合性を考えていくことが必要である。目標値は現実味という意味ではふさわしくない。背伸びすれば届くあたりに設定すべき」とのこと。

・もう一人の欠席委員の意見は、「①中間目標を設置することについては賛成である。②目標値については数値を入れ替えて別の数値案を見せてもらいたい。」とのこと。これについては、インフラ試算については試算ソフトでは現実との乖離が大きいため別の方法で算出を考えている。

「③インフラ専用の試算ソフトと公共施設専用の試算ソフトがあるのか。」ということについては、把握をしていません。

「④3.5 具体的な実施方針、3.6 公共施設の整備方針を定める方法については、大枠の方針に賛成します。」とのこと。

「⑤点検や診断、調査を日常的に行うことについて、これらに要する費用は更新経費に含まれているのか。」については、基本的には含まれていない。

「⑥計算方法により仮定を変えていくと金額はかなり異なってくるのか。」については、当然異なってくる。

「⑦充当可能な財源について、歳出の全体的な割合状況と併せて、この額しか財源として回せないということを計画案にも明示すべきではないか。」については、あくまで過去5年の充当額の平均を置いているが、これも仮定であるので、財政担当部局とも調整しながら検討したい。

「⑧公共施設の更新にかかる経費で、2015年から2024年の最初の10年間について、市立病院の新築にかかる費用がかなりの割合を占めているのか。」については、対象外としているので含まれていない。

「⑨それぞれの10年の期間内における特徴のようなものはありますか。」については、各10年間の間に更新や大規模改修を行う建物にはどういったものがあるかをお示しできればと考えている。

「⑩最初の10年間について、あり得る更新等のシミュレーションのようなものはできますか。」については、必要だと思うが今のところは用意できていない。

「⑪議会や市民への目標値の示し方については、個々の施設の実施方針について、現時点で確定することはできない、現時点では試算ソフトにより導き出された目標値を示す、将来

個々の施設の実施方針が決定し、実行されていく中で第2期、第3期の目標値は変動する可能性が高いあるいは低いということを明示する、というように説明することになるのか。」については、個々の施設については実施計画で今後お示しするもので、あくまで公共施設等総合管理計画は全体の基本方針ということになる。目標値については、30年という期間の中で変わらないということはないと思うので、伝わるように説明をしていきたい。

委員

- ・指定管理者制度やPPP/PFIとは何のことか説明がない。

市

- ・注釈等を用意したい。

委員

・削減目標値自体は市民に説明すれば納得していただけたらと思う。自分達の身近な施設が集約されてなくなっていくとなれば、結構大変な作業だと思う。総論賛成、各論反対である。手段については、新たな施設を建てて、そこに全部集約していくという考えはないのか。

市

・複合化の括弧書きに「複合して更新することを含める」とあるように、その考え方もある。試算の結果、その方が有利であれば、それも更新の一つとして捉えればよいと思う。

委員

・目標値が数字で表現されたのは分かり易くなった。目標設定の算出根拠はあくまで試算ソフトで算出したもので、現実的なものではない。それがどれだけ現実と乖離しているものなのか。現在ある施設を更新、改修するという形で算出してもらいたいと思う。算出根拠が変われば数字が変わると言われているので、仮想の目標値ということになってしまう。前回は、目標値が面積であったとして、15%減らそうか20%減らそうかという話があった。その数字も白書の提言からすると40%という数字が出ていた。今回の目標値の数字も根拠をちゃんとした方がよい。

市

・理想としては個々の公共施設の更新経費を見ていくのが良いが、それは難しいので試算ソフトを使わざるを得ないのが現状である。財源については過去5年の平均であるが、今の時点では平均でいくしかないと思っている。現時点で大きく変わってくるのはインフラだと思う。水道、下水道については企業会計であり、それぞれの財政収支計画を立てている。更新ソフトによるグラフでは、毎年21億円程度の更新となっているが、これまで7億円程度だったのが21億円となるのは現実的には有り得ない。水道は昭和30年ぐらいに整備が始まり、これから更新時期に入るとというのが現実である。そのような中で、耐用年数は40年とはいうものの、現場の話によると現実には大体60年ぐらいでの更新ということ。それだけでも更新見込み額には大きく影響する。下水道はグラフを見ると2015年から更新が始まっているが、合併前の二見町での整備が一番古いものであるため、更新時期は管の耐用年数が50年とはい

うものの、全国的に72年でアセットを進めていると聞くので、2054年までに更新は何も影響しないということになり、大きく数字が下がることになる。ただし、一部の建物の更新が出てくる。下水道には汚水整備があって、もう一つ雨水のポンプ場等の整備があるので、そういったものがグラフに現れてくるものと思う。長寿命化計画に基づいた実際の数字が入れられるものと考えている。上水道、下水道については、試算ソフトを用いないことにより、感覚的には1/3程度は下がるのではないか。

委員

・数字を用いるのは分かり易いが、試算の設定や現実とは違うといったことで、算出根拠がこういう状況なので、いいのかなと思う。

市

・また、上水道、下水道については、財源をいただいているので、それを上げるということにもなるかと思う。

委員

・算出根拠が試算ソフトを用いた数字でやっており、それをもとに削減目標を立てている。そうするとそこに現実的に近づけられるかどうか。要は、この数字自身ははっきりしないものに対して設定していることが気になる。面積の%より、数字の方が非常に分かりやすくてよいが。

市

・本日欠席の委員からも、分かり易くなって良かったとのご意見をいただいたが、数字を出す事に心配もいただいた。現実と乖離したり、整合が図れないようなことにならないかと心配された。

委員

・特に中間目標も設定されているので、10年ごとに査定しなければならない。

市

・総務省からの指示は10年以上の計画期間でとのことだった。10年より先もあるものなので、問題を先送りせず30年とした。また、ある程度のところで見直す時期をとということで10年ごとに刻んだ。

委員

・それはよいことだと思う。

委員

・全国一律の試算ソフトでは、都市と地域で差が出てくることもあると思う。計画を作るときは、予測もあって、それが正しいかどうかは分からないが、何かを基準にやっていくもの。数字が正しいかどうかは分からないが、それでスタートさせていかないと途中で検証もでき

ないと思う。現実には計算していくのは、時間もかかり難しいと思う。

委員

・「時代に応じた公共サービス」の記述については、「時代のニーズに応じた公共サービス」の方が良い。「原則、新たな公共施設の建設は行わない」については、ここまで書く必要はないと思う。新たな公共施設の建設と更新の意味合いもよく分からない。

市

・表現を工夫させていただきたい。

委員

・地域別については、本来なら地域別と用途別が絡んで出てくるはずである。実施計画の中では、並列して地域別の計画も必要なのではないか。

市

・地域別の計画のイメージとしては、学校の計画の中に地域性も含めて溶け込ませてしまおうと考えている。

委員

・例えば支所であれば、この地域での利用はどの程度であるとか、そういう地域をイメージしている。統廃合だとか、地域をどのように設定するかの問題はあるが、中学校区など、その地域に点在する施設をどう考えていくのかが、地域別の計画であると私は理解している。そうすると、それぞれの地域にある施設の用途が絡んでくるので、類型別だけではなく地域別も絡んでくるのではないかということ。

また、p 26「維持管理・修繕等の履歴をデータベース化して情報として蓄積する」という表現については、p 28 では「更新履歴をデータベース化する」、前の資料の p 27 では「基礎データ」、p 28「施設カルテ」とあるが、これはそれぞれが単独でデータベース化するのか、まとめて施設カルテというものが一つのデータベース化されたものなのか。

市

・施設カルテというところに全てのデータがちゃんと分かるようになればいいというご意見でよろしいか。

委員

・言葉も統一した方がよいのであれば、統一してはどうか。施設カルテの中で基金を設けるというのがあったが、長期修繕計画もこの記載事項の中に表現できるかどうかは別として入れてもらった方がよいのではないか。第 5 章については、(1) 市民文化系施設がメインだと思うが、集会施設や文化施設の方が目立っているので見づらかった。

委員

・見せ方だと思う。黒に白抜き文字が一番目立っている。データベースは別々に作るのか。

市

・そうではない。それぞれの箇所に必要性を書いただけで、一つのものである。

委員

・言葉が、「基礎データ」とか「データベース化」とか、意味合いが違ってくる。

委員

・「原則、建てない」という言葉があったが、私は「原則、建てない」は「建てられる」と解釈する。基本的には建てないが、必要があれば建てる。しかし、それをあまり前面に出すと抑えがきかなくなるから、こういう表現になったと理解している。

市

・施設保有数を減らす。3施設を更新するところを、あわせて1つの更新にすれば少しは費用が抑えられると考えている。

委員

・前の資料には述べ床面積のグラフがあり、伊勢市は全国平均より下だった。そのようなグラフは不要だと思っていたので、なくなって良かった。

委員

・新病院、消防本部の建設については記述があったが、本庁舎の改修については規模が大きいが記述がないのはどうなのか。計画的に進めているのであれば、表現されてもよいのではないか。

市

・ご意見のとおり、記述に含めるべきだと思うので、書き加えさせていただく。

委員

・第5章にデータのところで赤字で平成22年度と書いてあるが、平成23年度や平成25年度などバラバラでは格好悪いと思う。最終的には最新の年度で統一した記述になってくるのか。

市

・揃えていく予定である。

委員長

・地域別について確認したいが、p21施設類型別計画とは別に地域別計画があるのか。

市

・地域別計画は1つの計画として出るのではなくて、地域のことも考えたうえで個別計画ができあがるようなイメージでいる。施設類型別計画の横に地域別計画が並ぶのかというご質

問に対しては、並ばないということになる。溶け込ませる感じである。p 31 調整組織でお互いの作業部会を作りながら、横に協議をして複合施設を考えていくイメージの中で個々の施設を考えていきたいと思っている。

委員

・それであれば、地域別の何かを配慮したという形でないといけない。

市

・文章のところに地域別の考えを含めた記述をさせていただく。

委員

・第 5 章のその他の後に病院が来る形になっているのは、管理が違うという意味か。その他は最後ではないのか。

市

・意図は、病院は企業会計であるが、ここに考え方を載せさせていただいた。最後のところに載せたというだけである。

委員長

・第 3 章に基本方針があり、第 5 章に施設別の基本方針がある。この整合はどのように考えているのか。ある程度リンクさせた方がよいのではないか。

市

・表現などを分かり易く整理させていただきたい。

委員

・当初の会議で基金を作ることも話に出たと思うが、その検討はなされたのか。

市

・p 32 財政との連携の部分で、将来の財政需要に対する資金の確保を計画的に行うため基金の設置を検討すると記述させていただいたが、具体的なところは今後になる。

委員長

・目標値は背伸びをしても届かないのではないか。

市

・試算ソフトで計算した更新経費と、今支出している経費との差額を出している。例えば、目標をこの金額の中で収まるものだけやっていると、できることだけをやって問題の先送りになってしまう。本質論の止めていくとか、統廃合などを後ろに持っていきただけになってしまうといけない。目標値はいくらであっても、どのように達成するのかという話になるので、整合がとれるように考えていかなければならないと思っている。目標値の金額につ

いてはともかく、全体の考え方については検討会でご了承を得られたと理解してよいか。

委員

・はい。

市

・これからこの資料を庁内会議に諮らせていただく予定である。また、本日いただいたご意見をもとに、調整を図らせていただく。

(3) その他

特になし